



【原発事故を消すな！生活と命を守る市民測定所に！】

会員のみなさま。ご支援くださっているみなさま。

2016年を振り返ってみますと、
九州・川内原発に続き、四国・伊方原発が再稼働。
環境省は8000ベクレル/kg以下の汚染土をリサイクル推進。避難指示区域の打切り強行。
まるで福島原発事故は消えてなくなったのか？という状況です。
事故が起きてでも安心・安全という新たな神話がつくられようとしています。

私たち京都・市民放射能測定所は、自分で測っているからこそ、汚染が続いていることを知っています。
今年測った土、落ち葉、干し柿など、数字で現れています。

11月26日に開催した第四回測定所まつりでは、放射能による健康被害を明らかにしました。
放射性物質を含む微粒子が漂い、人体に侵入していく恐ろしさ。
甲状腺がんだけでなく、周産期死亡や心筋梗塞のデータ。

だからこそ、測り続けなければならない。そう思っています。
事故の後、国や東電はデータを隠しました。
だからこそ、市民が防護するための測定所が必要だと。

京都の地場の野菜や米が不検出であることも大事なデータです。
万一の時に、事故前と事故後を比較することができます。
ホットスポットファインダーを購入し、今のデータを採取しておくことも必要です。

京都・市民放射能測定所の財政基盤を建直し、セシウム137の半減期30年を越え、全原発の廃炉を見届けるまで続けられますように、2017年もご支援をよろしくお願いします。

2016年12月11日

京都・市民放射能測定所 運営スタッフ一同